



Title	デンマーク主要家具メーカーにおける製品ラインナップの構成と復刻について
Author(s)	多田羅, 景太
Citation	デザイン理論. 2024, 84, p. 55-69
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97667
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デンマーク主要家具メーカーにおける 製品ラインナップの構成と復刻について

多田 羅 景 太

キーワード

デンマーク, 家具デザイン, 復刻

Denmark, Furniture Design, Reproduction

はじめに

1. デンマークの主要家具メーカー5社の製品構成
 - 1.1 フリッツ・ハンセン
 - 1.2 カール・ハンセン&サン
 - 1.3 フレデリシアファニチャー
 - 1.4 ワンコレクション
 - 1.5 PP モブラー
 2. 各メーカーにおける復刻事業の特徴
 - 2.1 家具工房とファニチャーファクトリー
 - 2.2 ファニチャーファクトリー4社の比較
- おわりに

はじめに

日本で「北欧デザイン」というワードが定着して久しい。2022年7月23日から10月9日にかけて東京都美術館で開催された「フィン・ユールとデンマークの椅子」展には約6万5千人の来場者が訪れ、美術館独自の企画展としては非常に高い注目を集めた。これは北欧デザインの中核をなすデンマークの家具デザインが、社会的にも広く注目されていることの表れといえよう。本展覧会はデンマークを代表する家具デザイナーであるフィン・ユール（1912-89）の作品を中心に、ハンス J. ウェグナー（1914-2007）、ボーエ・モーエンセン（1914-72）、アルネ・ヤコブセン（1902-1971）、ポール・ケアホルム（1929-1980）ら 20 世紀中期に活躍した家具デザイナーや建築家による作品で構成されていたが、2000 年以降にデザインされた作品はサルト & シグスボー（1967-/1966-）によるカウンシルチェア（2010）と副次的に展示された照明器具数点のみであった。これはデンマーク家具デザインの黄金期（1940 年代-60 年代）に活躍した家具デザイナーに焦点を当てた展示構成であったことも影響しているが、デンマーク主要家具メーカーのカatalogやウェブサイトをみても黄金期にデザインされ

本稿は、第 252 回意匠学会研究例会（2023 年 11 月 4 日、オンライン開催）での発表にもとづく。

た作品が今なお大きく紹介されており、各メーカーにとってこれらの家具が製品ラインナップの構成上、重要な意味を持つことを示唆している。

上記展覧会などを通じた認知度の向上に伴い、黄金期にデザインされた作品に対する需要は一層高まっており、半世紀以上前にデザインされた家具が復刻されるケースが近年目立つようになった。ウェグナーやモーエンセンなど著名なデザイナーの場合、複数の家具メーカーから復刻作品が発表されることも多く、デンマーク家具業界全体における復刻の状況を俯瞰的に捉えることは容易ではない。また復刻事業が盛んになったのは近年のことであり、先行研究において復刻について深く言及されたものは管見の限り見当たらない。

本稿ではデンマークの主要家具メーカー5社（フリッツ・ハンセン、カール・ハンセン＆サン、フレデリシアファニチャー、ワンコレクション、PPモブラー）の復刻事業や新製品開発に対する方針を明らかにすることを目的とし、2014年、2021年および2023年における各メーカーの製品ラインナップ構成を定量的に分析する。そして分析結果による考察を基に、20世紀中期に開花し今なお受容され続けているデンマーク家具デザインの現在地を捉えたい。

1. デンマークの主要家具メーカー5社の製品構成

具体的な分析の方法として、上記各メーカーにおける各デザイナーの製品数とそれらがデザインされた年代を表すグラフを調査年ごとに作成し¹、比較材料とした。なおグラフの作成において同一のデザイナーによる近似デザインの重複を避けるために次の4つ規定を設けている。ソファなどにおける二人掛け、三人掛けなどのサイズ違いは一件としてカウントする。肘掛けやキャスターの有無など同一デザインの派生モデルで発表年が異なる場合は、最も発表が早い作品を一件としてカウントする。特定の椅子とセットで使用することを想定したフットスツール（オットマン）は調査の対象に含めない。椅子、テーブル、デスク類を対象とし、照明器具、ゴミ箱などアクセサリ類は調査の対象に含めない。

なお調査対象とした年の設定についてあるが、2014年については第56回意匠学会大会の研究発表時に作成したデータが基になっている。その後の変化を確認するために2021年および2023年にも同様の調査を行った。そのため調査の間隔が異なるが、各メーカーにおける製品ラインナップの変化を大局的に掴む上では十分有効だと考える。

1.1 フリッツ・ハンセン

図1-1、図1-2、図1-3を基に2014年、2021年、2023年におけるフリッツ・ハンセンの製品ラインナップの変化を分析する。まず注目すべきはアルネ・ヤコブセンとポール・ケアホルムによって黄金期にデザインされた作品が複数復刻されていることである。ヤコブセン

PK	1950 (9)	1960 (6)	1970(2)	(17)
AJ	1950 (8)	1960 (3)		(11)
KS	2000 (2)	2010		(3)
CM	2000	2010 (2)		(3)
PBA	1960			(2)
J+L	2000			(2)
PL	2000			(2)
HA	2010			(2)
HJW	1940			
PB	1960			
SW	1970			
HK	2000			
TB	2000			
PD	2000			

PK：ボール・ケアホルム, AJ：アルネ・ヤコブセン, KS：キャスパール・サルト,
CM：セシリエ・マンツ, PBA：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン/アルネ・ヤコブセン,
J+L：イエス+ラウブ, PL：ピエロ・リッソーニ, HA：ハイメ・アジソン,
HJW：ハンスJ.ウエグナー, PB：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン, SW：シセ・ヴェアナー,
HK：紺野弘道, TB：トッド・ブレイチャー, PD：ペリカンデザイン

図 1-1 フリッツ・ハンセンの製品構成 (2014 年)

PK	1950 (9)	1960 (6)	1970 (2)	(17)
AJ	1950 (11)	1960 (4)		(15)
HA	2010			(7)
KS	2000	2010 (2)		(3)
PM	1940	1950		(2)
FH	1950	2010		(2)
VM	1950	1990		(2)
PBA	1960			(2)
PL	2000			(2)
NS	2010			(2)
HJW	1940			
PB	1960			
SW	1970			
CM	2000			
BH	2010			
KBS	2010			
SH	2020			
MS	2020			

PK：ボール・ケアホルム, AJ：アルネ・ヤコブセン, HA：ハイメ・アジソン,
KS：キャスパール・サルト, PM：ポール・マッコブ, FH：フリッツ・ハンセン,
VM：ヴィコ・マジストレッティ, PBA：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン/アルネ・ヤコブセン,
PL：ピエロ・リッソーニ, NS：佐藤オオキ, HJW：ハンスJ.ウエグナー,
PB：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン, SW：シセ・ヴェアナー, CM：セシリエ・マンツ,
BH：ベンジャミン・ヒューバート, KBS：キピシ, SH：セバスティアン・ヘルクナ,
MS：メッテ・シエルデ

図 1-2 フリッツ・ハンセンの製品構成 (2021 年)

PK	1950 (13)	1960 (6)	1970 (3)	1980	(23)
AJ	1950 (13)	1960 (4)			(17)
HA	2010				(6)
KS	2000	2010 (2)			(3)
PM	1940	1950			(2)
FH	1950	2010			(2)
VM	1950	1990			(2)
PBA	1960				(2)
CM	2000	2020			(2)
PL	2000				(2)
NS	2010				(2)
HJW	1940				
PB	1960				
SW	1970				
SH	2020				
MS	2020				

PK：ボール・ケアホルム, AJ：アルネ・ヤコブセン, HA：ハイメ・アジソン,
KS：キャスパール・サルト, PM：ポール・マッコブ, FH：フリッツ・ハンセン,
VM：ヴィコ・マジストレッティ, PBA：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン/アルネ・ヤコブセン,
CM：セシリエ・マンツ, PL：ピエロ・リッソーニ, NS：佐藤オオキ, HJW：ハンスJ.ウエグナー,
PB：ビート・ハイン/ブルーノ・マットソン, SW：シセ・ヴェアナー,
SH：セバスティアン・ヘルクナ, MS：メッテ・シエルデ

図 1-3 フリッツ・ハンセンの製品構成 (2023 年)

に関してであるが、2014年から2021年の間にAJトロリー（1955）、リトルジラフ（1959）、ポットチェア（1959）、オクセン（1968）が復刻されており、2021年から2023年の間にエッグテーブル（1952）とFH3605（1955）が復刻されている。一方ケアホルムは2021年から2023年の間にPK0（1952）、PK4（1952）、PK60（1952）、PK60（1952）、PK26（1956）、PK15（1979）、PK40（1980）が復刻されている。フリッツ・ハンセンにとってヤコブセンとケアホルムは製品構成の中核を成す重要なデザイナーであるが、両者が黄金期にデザインした作品を積極的に復刻していることが如実に現れているといえよう。

一方、現役のデザイナーで目立つのがハイメ・アジョン（1974-）である。2014年の調査ではファウン（2011）とロオ（2013）の2作品のみであったが、2014年から2021年の間にアナログテーブル（2014）、サメン（2015）、ルネ（2017）、プレナム（2018）、フレッド（2019）の5作品が発表されており、2023年の調査においても現役デザイナー最多の作品数を誇る。しかしながらヤコブセンやケアホルムの作品数と比較するとその作品数は半数以下であり、この点からもフリッツ・ハンセンの商品構成におけるヤコブセンとケアホルムの重要性がグラフから浮き彫りになったといえよう。

アジョン以外にもデンマークのキャスパー・サルト（1967-）やセシリエ・マンツ（1972-）に加えイタリアのピエロ・リッソーニ（1956-）、ドイツのイエス+ラウブ（1965-/1964-）、日本の紺野弘道（1972-）、佐藤ナオキ（1977-）など、国際的に活躍する現役デザイナーを起用しているが、その作品数は限定的である。

1.2 カール・ハンセン&サン

図2-1、図2-2、図2-3を基に2014年、2021年、2023年におけるカール・ハンセン&サンの製品ラインナップの変化を分析する。まず製品構成の中核を成すウェグナーに着目すると2014年から2021年の間にCH23（1950）、CH71（1952）、CH30（1954）、CH78（1954）、CH825（1958）の5作品が復刻されており、2021年から2023年の間にもCH22（1950）、CH004（1952）、CH44（1965）、CH45（1965）、CH46（1965）の5作品が復刻されている。

なおカール・ハンセン&サンは2011年にルッド・ラスムッセンを買収しており、コア・クリント（1888-1954）、オーレ・ヴァンシャー（1903-85）、モーエンス・コッホ（1898-1992）など黄金期に活動していたデザイナーによる作品を加えた。クリントについては2014年から2021年の間にファーボーチェア（1914）、レッドチェア（1927）、ミックスチェア（1930）、KK41180 ソファ（1930）、プロペラチェア（1930）、アディション・ソファ（1933）、KK53130 イージーチェア（1935）が復刻されている。またヴァンシャーについては2014年から2021年の間にピークチェア（1951）、コロニアル・コーヒーテーブル（1964）が、2021

HJW	1940 (3)	1950 (11)	1960 (10)
	1970 (4)	1980 (2) (30)	
OW	1950 (2)	1960 (2) (4)	
MK	1920 1930 (2)		
S+H	1990 2000 (2)		
KK	1930		HJW：ハンス J. ウェグナー，OW：オーレ・ヴァンシャー，MK：モーエンス・コッホ，
FH	1930		S+H：ストランド+ヴァス，KK：コア・クリント，FH：フリッツ・ヘニングセン，
MG	1990		MG：モーテン・グットラー，TK：トーマス・カストホルム，TA：安藤忠雄
TK	2000		
TA	2010		

図 2-1 カール・ハンセン & サン の製品構成 (2014 年)

HJW	1940 (3)	1950 (15)	1960 (6)
	1960 (4)	1970 (4)	1980 (2) 1990 (35)
BM	1940	1950 (5)	1960 (4) 1970 (2) (12)
KK	1910 1920	1930 (6)	(8)
OW	1950 (3)	1960 (3) (6)	
BK	1950	(4)	
FH	1930 (2) 1950 (3)		
BA	2010	(3)	
EO	2010	(3)	
PK	1950	(2)	
ML	1920		HJW：ハンス J. ウェグナー，BM：ボーエ・モーエンセン，KK：コア・クリント，
AJ	1950		OW：オーレ・ヴァンシャー，BK：ボーディル・ケア，FH：フリッツ・ヘニングセン，
ND	1950		BA：ブラッド・アスカロン，EO：イーオス，PK：ボール・ケアホルム，
MG	1990		ML：モーエンス・ラッセン，AJ：アルネ・ヤコブセン，ND：ナンナ・ディッツェル，
S+H	2000		MG：モーテン・グットラー，S+H：ストランド+ヴァス，
TK	2000		TK：トーマス・カストホルム，TA：安藤忠雄，AB：アンカー・バック，
TA	2010		RF：リッケ・フロスト
AB	2010		
RF	2020		

図 2-2 カール・ハンセン & サン の製品構成 (2021 年)

HJW	1940 (3)	1950 (17)	1960 (4)
	1960 (9)	1970 (4)	1980 (2) 1990 (40)
BM	1950 (5)	1960 (5)	1970 (2) (12)
KK	1910 1920	1930 (6)	(8)
OW	1950 (4)	1960 (3) (7)	
AH	2020	(7)	
BK	1950	(4)	
FH	1930 (3) 1950 (4)		
EO	2010 (3) 2020 (4)		
VL	1940 (2) 1950 (3)		
PK	1950	(2)	
FK	1910 1920 (2)		HJW：ハンス J. ウェグナー，BM：ボーエ・モーエンセン，KK：コア・クリント，
ML	1920		OW：オーレ・ヴァンシャー，AH：アルフレッド・ホーマン，BK：ボーディル・ケア，
AJ	1950		FH：フリッツ・ヘニングセン，EO：イーオス，VL：ヴィルヘルム・ラウリッツェン，
ND	1950		PK：ボール・ケアホルム，FK：ファブリシャス & カストホルム，
EA	1950		ML：モーエンス・ラッセン，AJ：アルネ・ヤコブセン，ND：ナンナ・ディッツェル，
MG	1990		EA：アイナー・ラーセン / アクセル・ベンダー・マドセン，
S+H	2000		MG：モーテン・グットラー，S+H：ストランド+ヴァス，
TK	2000		TK：トーマス・カストホルム，BA：ブラッド・アスカロン，TA：安藤忠雄，
BA	2010		AB：アンカー・バック，RF：リッケ・フロスト
TA	2010		
AB	2010		
RF	2020		

図 2-3 カール・ハンセン & サン の製品構成 (2023 年)

年から 2023 年の間に T チェア (1958) が復刻されている。

これらに加えて黄金期に活躍したその他の家具デザイナーによる作品の復刻にも非常に積極的であることをグラフから読み取ることができる。具体的には 2014 年から 2021 年の間にはモーエンセンの BM0949 (1949), BM1106 (1950), BM1160 (1950), BM0253 (1953), BM0865 (1958), BM0488 (1958), BM5568 (1960), BM5768 (1967), BM4570 (1967), BM3670 (1967), BM1771 (1971), BM1871 (1971), ボーディル・ケア (1932-) の BK10 (1959), BK13/17 (1959), BK14 (1959), BK15 (1959), ケアホルムの PK1 (1955), PK52 (1955), フリッツ・ヘニングセン (1889-1965) の FH436 (1936), FH429 (1954), ヤコブセンの AJ52 (1952), モーエンス・ラッセン (1901-87) の ML10097 (1922), ナンナ・ディッツェル (1923-2005) の ND54 (1954) が復刻されており, 2021 年から 2023 年の間にはヴィルヘルム・ラウリッツェン (1894-1984) の VLA76 (1945) VLA75 (1945), VLA26 (1956), ファブリシャス&カストホルム (1931-84/1931-2007) の FK 10&11 (1963), FK63 (1963), モーエンセンの BM29 (1956), フリッツ・ヘニングセンの FH38 (1938), アイナー・ラーセン/アクセル・ペンダー・マドセン (1917-87/ 1916 - 2000) の LM92 (1950) が復刻されている。

以上を合算すると 2014 年から 2021 年の間に合計 37 もの作品が復刻されており, 2021 年から 2023 年の間にも 14 作品が復刻されている。これは調査対象としたデンマークの主要家具ブランド 5 社の中でもとりわけ多い。なおモーエンス・コッホのユニットシェルフ (1928) とフォールディングチェア (1932) は製造ライセンスがゲタマに移ったため 2014 年から 2021 年の間に廃盤となった。

一方, 現役のデザイナーによる作品であるが, 2014 年から 2021 年の間にブラッド・アスカロン (1977-) による 3 作品, イーオスによる 3 作品, モーテン・グッドラー (1944-) による 1 作品, アンカー・バック (1983-) による 1 作品, リッケ・フロスト (1973-) による 1 作品の合計 9 作品が発表されており, 2021 年から 2023 年の間にアルフレッド・ホームマン (1948-) による 7 作品が発表されている。先述した復刻作品との数を比較すると, 現役デザイナーによる作品数は限定的であるといえよう。

1.3 フレデリシアファニチャー

図 3-1, 図 3-2, 図 3-3 を基に 2014 年, 2021 年, 2023 年におけるフレデリシアファニチャーの製品ラインナップの変化を分析する。まず製品構成の中核を成すモーエンセンに着目すると 2014 年から 2021 年の間に BM61 (1958), Library Table (1958), Canvas Chair (1970), Spanish Dining Chair (1964), Lynderup Chair (1954), BM67 (1956) の 6 作

BM	1940 (4)	1950 (6)	1960 (5)	1970 (16)
ND	198019902000	(3)		
SC	2010	(3)		
EAJ	1950	(2)		
TS	1990	(2)		
TP	2000	(2)		
SA	2000	(2)		
SG	20002010	(2)		
W&L	2010	(2)		
HJW	1940			
PB	1970			
NH	1980			
HSJ	1990			
CM	2000			
AH	2000			
FU	2000			
GA	2000			
RG	2000			

BM：ボーエ・モーエンセン，ND：ナンナ・ディッツエル，SC：スペース・コベンハーゲン，
EAJ：アイヴァン A. ヨハンソン，TS：トム・ステッブ，TP：トマス・ペーダセン，SA：安積伸，
SG：スザンネ・グロンルンド，W&L：ウィリング&ルドヴィック，HJW：ハンス J. ウェグナー，
PB：ピア・ボア，NH：ニールス・ハウゲセン，HSJ：ハンス S. ヤコブセン，CM：セシリエ・マンツ，
AH：アルフレッド・ハベリ，FU：ファーニッド，GA：ガムフラデーシ，RG：ローランド・グラフ

図 3-1 フレデリシアファニチャーの製品構成（2014 年）

BM	1940 (3)	1950 (12)	1960 (5)	1970 (2)	(22)
SC	2010 (4)	2020 (2)	(6)		
F&H	1990	2000 (2)	2010 (2)	(5)	
HJW	194019601970	(3)			
JR	1940	1960 (2)	(3)		
CM	2000	2010(2)	(3)		
EJS	2000	2010(2)	(3)		
JM	2010	(3)			
EAJ	1950	(2)			
ND	19501990	(2)			
PMV	1960	(2)			
EJ	1970	(2)			
E&J	20002010	(2)			
HW	20002010	(2)			
W&L	2010	(2)			
HP	2010	(2)			
PB	1970				
AV	1970				
HSJ	1990				
TP	2000				
SA	2000				
GM	2010				
TR	2010				
T&K	2010				
AR	2010				
GA	2010				
MF	2010				
DW	2010				
A&V	2010				
D&T	2010				
KT	2010				
FF	2010				

BM：ボーエ・モーエンセン，SC：スペース・コベンハーゲン，
F&H：フォーサム&ヒオルト＝ローレンツェン，HJW：ハンス J. ウェグナー，
JR：イェンス・リーソム，CM：セシリエ・マンツ，EJS：エリック・ヨーゲンセン・スタジオ，
JM：ジャスパー・モリソン，EAJ：アイヴァン A. ヨハンソン，ND：ナンナ・ディッツエル，
PMV：ポール M. ヴォルター，EJ：エリック・ヨーゲンセン，E&J：エアンスト&イェンセン，
HW：ハンス・ウェッツスタイン，W&L：ウィリング&ルドヴィック，HP：ヒューゴ・パッソス，
PB：ピア・ボア，AV：アルネ・ヴォッター，
HSJ：ハンス S. ヤコブセン，TP：トマス・ペーダセン，SA：安積伸，GM：ゲッケラー・ミヘルス，
TR：ティモ・リパッティ，T&K：タウ&カリオ，AR：アルデ，GA：ガムフラデーシ，
MF：モニカ・フォスター，DW：ダミアン・ウィリアムソン，A&V：アンダーセン&ヴォル，
D&T：ドゥ&トランペダック，KT：武内経至，FF：フレデリシア・ファニチャー

図 3-2 フレデリシアファニチャーの製品構成（2021 年）

BM	1940 (3)	1950 (13)	1960 (5)	1970 (2) (23)
SC	2010 (4)	2020 (2) (6)		
HJW	1940 1960 (2) 1970 (4)			
ND	1950 1960 1990 (3)			
JG	1970 (2) 1980 (3)			
F&H	1990 2000 (2) (3)			
CM	2000 2010 (2) (3)			
JR	1940 1960 (2)			
EAJ	1950 (2)			
EJ	1970 (2)			
E&J	2000 2010 (2)			
EJS	2010 (2)			
JM	2010 (2)			
W&L	2010 (2)			
HP	2010 (2)			
PMV	1960			
HSJ	1990			
HW	2000			
SA	2000			
T&K	2010			
AR	2010			
GA	2010			
MF	2010			
DW	2010			
D&T	2010			
KT	2010			
FF	2010			

BM：ボーエ・モーエンセン，SC：スペース・コペンハーゲン，HJW：ハンス J. ウェグナー，
ND：ナンナ・ディッツェル，JG：ヨーン・ガメルゴー，
F&H：フォーサム&ヒオルト＝ローレンツェン，CM：セシリエ・マンツ，JR：イエンス・リーソム，
EAJ：アイヴァン A. ヨハンソン，EJ：エリック・ヨーゲンセン，E&J：エアンスト&イエンセン，
EJS：エリック・ヨーゲンセン・スタジオ，JM：ジャスパー・モリソン，
W&L：ウィリング&ルドヴィック，HP：ヒューゴ・パッソス，PMV：ポール M. ヴォルター，
HSJ：ハンス S. ヤコブセン，HW：ハンス・ウェッツスタイン，SA：安積伸，T&K：タウ&カリオ，
AR：アルデ，GA：ガムフラテーシ，MF：モニカ・フォスター，DM：ダミアン・ウィリアムソン，
D&T：ドゥ&トランベダック，KT：武内経至，FF：フレデリシア・ファニチャー

図 3-3 フレデリシアファニチャーの製品構成（2023 年）

品が復刻されており，一方で J49 は廃盤となっている。そして 2021 年から 2023 年の間に BM29（1956）が復刻されている。

なお 2020 年にはエリック・ヨーゲンセンを買収しており，ハンス J. ウェグナーのオックスチェア（1960），1788（1974），ポール M. ヴォルター（1923-2001）のコロナチェア（1964），コロナテーブル（1964），イエンス・リーソム（1916-2016）のマガジンテーブル（1949），A チェア（1961），65 ソファ（1965）を製品ラインナップに加えていることも注目に値しよう。また 2021 年から 2023 年の間にはヨーン・ガメルゴー（1938-1991）の JG フォールディングスツール（1970），JG ソファ（1979），JG テーブル（1984）を復刻している。このようにモーエンセンの作品に加え，他社からの製造ライセンスの取得および復刻によって，黄金期に発表された作品を積極的に製品ラインナップに追加していることがグラフからも明らかになった。

次に現役のデザイナーによる作品に目を向けると，2014 年から 2021 年の間にジャスパー・モリソン（1959-）の 3 作品，エアンスト&イエンセン（1964-/1969-）の 2 作品，ハンス・ウェッツスタイン（1958-）の 2 作品，ヒューゴ・パッソス（1979-）の 2 作品，ゲッケラー・ミヘルス（1984-/1984-）の 1 作品，ティモ・リパッティ（1967-）の 1 作品，タウ&カリオ

(1970-/1975-) の1作品, アルデ (1977-) の1作品, モニカ・フォスター (1966-) の1作品, ダミアン・ウィリアムソン (1974-) の1作品, アンダーセン&ヴォル (1976-/1965-) の1作品, ドゥ&トランペダック (1972-/1974-) の1作品, 武内経至 (1977-) の1作品の合計 23 作品が発表されたことに加え, エリック・ヨーゲンセンの買収によりフォーサム&ヒオルト=ローレンツェン (1947-/1973-) の5作品が製品群に加わっている。

一方で2014年から2021年の間にトム・ステップ (1950-) の2作品, スザンネ・グロンルンド (生年不詳) の2作品, ニールス・ハウゲセン (1936-2013) の1作品, アルフレッド・ハベリ (1964-) の1作品, ファーニッド (生年不詳) の1作品, ローランド・グラフ (生年不詳) の1作品が廃盤となり, 2021年から2023年の間にフォーサム&ヒオルト=ローレンツェンの2作品, セシリエ・マンツ (1972-) の1作品, ピア・ボア (1946-) の1作品, トマス・ペーダセン (1970-) の1作品, イェンス・リソムの1作品, ジャスパー・モリソンの1作品, ゲッケラー・ミヘルスの1作品, ティモ・リパッティの1作品, アルネ・ヴォルダー (1926-2009) の1作品, ハンス・ウェッツスタインの1作品, ポール M. ヴォルターの1作品, アンダーセン&ヴォルの1作品, エリック・ヨーゲンセン・スタジオの1作品が廃盤となっている。これらの廃盤となった作品の件数は, 本研究の調査対象とした5社の中でもとりわけ多い。フレデリシアファニチャーは販売不調な作品は廃盤になりやすく, 特に現役のデザイナーは入れ替わりが激しい傾向にあることがグラフから明らかになった。

1.4 ワンコレクション

図4-1, 図4-2, 図4-3を基に2014年, 2021年, 2023年におけるワンコレクションの製品ラインナップの変化を分析する。まず製品らの中核を成すユールに着目すると, 2014年から2021年の間にグラスホッパーチェア (1938), リトルマザーソファ (1945), ボヴィルケテーブル (1948), アートコレクターズテーブル (1948), 48チェア (1948) バタフライテーブル (1949), カクテルベンチ (1951), リーディングチェア (1953), 77ソファ (1953), フランスチェア (1956), グローブキャビネット (1961), トレイテーブル (1965) の12作品が復刻されており, 2021年から2023年の間に44チェア (1944), ファイヤープレイスチェア (1946), ウィスキーチェア (1948) の3作品が復刻されている。2014年から2023年の間に一人のデザイナーが遺した作品を15作も復刻していることから, ユールを軸に据えたワンコレクションの製品構成が如実に現れているといえよう。

一方で2014年から2021年の間にソアーン・ホルストの3作品, トーヴェ&エドワード・キンドラセン (1906-94/1901-82) の1作品, SHL デザインの1作品, ニールス・ガメルゴー (1944-) の1作品が廃盤となり, 2021年から2023年の間にラース・フランク・ニー

FJ	1940 (15)		1950 (9)
	1950 1960 (26)		
HT	1990 (3)	2000 (4)	2010 (8)
SH	1980 (2) 2000 (3)		
ND	1950		
T&E	1950		
LFN	1990		
SHL	1990		
ESÓ	2000		
NG	2000		
S&S	2010		
SUP	2010		

FJ：フィン・ユール，HT：ヘンリック・テングラー，SH：ソアーン・ホルスト，
ND：ナンナ・ディッツェル，T&E：トーヴェ & エドワード・キンドラーセン，
LFN：ラーズ・フランク・ニールセン，SHL：SHL デザイン，
ESÓ：エルラ・ソルベイク・オスカルスドッティル，NG：ニールス・ガメルゴー，
S&S：サルト&シスクゴー，SUP：ソアーン・ウルリック・ピーターセン

図 4-1 ワンコレクションの製品構成（2014 年）

FJ	1930	1940 (20)			1950 (3)
	1950 (11)			1960 (2)	(37)
HT	1990	2000 (2)	2010 (3)	(6)	
S&S	2010		(2)		
ND	1950				
LFN	1990				
ESÓ	2000				
SUP	2010				

FJ：フィン・ユール, HT：ヘンリック・テングラー, S&S：サルト&シスクゴー,
ND：ナンナ・ディッツェル, LFN：ラース・フランク・ニールセン,
ESÓ：エルラ・ソルベグ・オスカルストディル,
SUP：ソアーン・ウルリック・ピーターセン

FJ：フィン・ユール，HT：ヘンリック・テングラー，S&S：サルト&シスクゴー，
ND：ナンナ・ディッツェル，LFN：ラーズ・フランク・ニールセン，
ESÓ：エルラ・ソルベイク・オスカルスドッティル，
SUP：ソアーン・ウルリック・ピーターセン

図 4-2 ワンコレクションの製品構成（2021 年）

FJ	1930	1940 (23)		
	1950 (14)			1960 (2) (40)
HT	1990	2000 (2)	2010 (3)	(6)
S&S	2010 (2)	2020	(3)	
JLJ	2020	(2)		
ND	1950			
ESÓ	2000			

FJ: フィン・ユール, HT: ヘンリック・テングラー, S&S: サルト&シスクゴ
JLJ: ヨーナス・ルンビュ・イェンセン, ND: ナンナ・ディッツエル,
ESÓ: エルラ・ソルベイグ・オスカルスドットイル

FJ：フィン・ユール，HT：ヘンリック・テングラー，S&S：サルト&シスクゴー，
ILJ：ヨナス・ルンビュ・イェンセン，ND：ナンナ・ディッツェル，
ESÓ：エルラ・ソルベイク・オスカルスドッティル

図 4-3 ワンコレクションの製品構成（2023 年）

ルセン（1951-）の 1 作品，ソアーン・ウルリック・ピーターセン（1951-）の 1 作品が廃盤となっている。設立当初より経営を支えてきたヘンリック・テングラーによる作品と，1952 年にユールが設計したニューヨーク国際連合本部信託統治理事会議場のリニューアルに合わせて近年サルト&シスクゴーによってデザインされた 3 作品は，今後もワンコレクションの製品群に留まることが期待されるが，その他のデザイナーによる作品はいつまで製造が継続されるのか今後の動向に注目したい。

1.5 PP モブラー

図 5-1，図 5-2，図 5-3 を基に 2014 年，2021 年，2023 年における PP モブラーの製品ラインナップの変化を分析する。まず製品構成の中核を成すウェグナーに着目すると，2014 年から 2021 年の間に PP530（1954），PP135（1967），PP126（1983）が復刻され，PP726（1965）が廃盤となっている。そして 2021 年から 2023 年の間に PP16（1960）が復刻され，PP33（1950），PP105（1979），PP312（1981），PP126（1983）が廃盤となっている。2014

HJW	1940 (6)	1950 (11)	1960 (5)	1970 (2)
	1970 (2)	1980 (5)	1990 (32)	
J&P	1950			
SUP	2000			
ZH	2000			
TA	2010			

HJW：ハンス J. ウェグナー， J&P：ヨルゲン・ホイ & ボール・ケアホルム，
SUP：ソアーン・ウルリック・ピーターセン， ZH：ザハ・ハディッド，
TA：トーマス・アルケン

図 5-1 PP モブラーの製品構成（2014 年）

HJW	1940 (5)	1950 (12)	1960 (5)	1970 (2)
	1970 (2)	1980 (6)	1990 (33)	
J&P	1950			
ZH	2000			
TA	2010			
RGF	2010			

HJW：ハンス J. ウェグナー， J&P：ヨルゲン・ホイ & ボール・ケアホルム，
ZH：ザハ・ハディッド， TA：トーマス・アルケン，
RGF：リカルド・グラハム・フェレイラ

図 5-2 PP モブラーの製品構成（2021 年）

HJW	1940 (5)	1950 (11)	1960 (6)	1970 (2)
	1970	1980 (4)	1990 (30)	
J&P	1950			
TA	2010			
RGF	2010			

HJW：ハンス J. ウェグナー， J&P：ヨルゲン・ホイ & ボール・ケアホルム，
TA：トーマス・アルケン， RGF：リカルド・グラハム・フェレイラ

図 5-3 PP モブラーの製品構成（2023 年）

年から 2021 年の間にウェグナーがデザインした家具を 4 作品復刻しているが、一方でそれを上回る 5 作品が廃盤となっている点は、他の 4 メーカーと大きく異なる点であろう。

なお現役のデザイナーによる作品であるが、2014 年から 2021 年の間にリカルド・グラハム・フェレイラ（1974-）の PP12 が発表され、ソアーン・ウルリック・ピーターセンの PP911 が廃盤となっており、2021 年から 2023 年の間にザハ・ハディッド（1950-2016）の PP995 が廃盤となっている。

ウェグナーの作品数に対して現役デザイナーによる作品数は極めて少ないことをグラフからも読み取ることができるが、2019 年にアイナ・ペダーセンの孫にあたる 3 代目の社長キャスパー・ホルスト・ペダーセン（1974-）に聞き取り調査を行った際に²「ウェグナーに匹敵するデザイナーが現れるまで他のデザイナーを積極的に起用する予定はない。」と発言していたことから、今後もウェグナーに特化した経営を継続していく方針を可能な限り維持していくと考えられる。

2. 各メーカーにおける復刻事業の特徴

2.1 家具工房とファニチャーファクトリー

本章では前章での分析結果を基に各メーカーの方針を比較することで、デンマーク家具業界における復刻の状況を考察する。

まず調査対象としたデンマークの主要家具ブランド 5 社についてであるが、家具職人によ

る伝統的なクラフトマンシップを維持する家具工房と、近代的な設備を有し効率的な生産を行うファニチャーファクトリーに大別することができる³。具体的にはPP モブラーが前者に、その他の4社が後者に相当する。

デンマークにおける家具作りはキャビネットメーカーと呼ばれる家具職人によって長年支えられてきた。コペンハーゲンの家具職人組合が1554年に発足していることから、その歴史の長さを窺い知ることができる⁴。1927年から1966年にかけて毎年開催されたコペンハーゲンキャビネットメーカーズギルド展には40年間で延べ78名の家具職人が参加しており、少なくとも1960年代までは数多くの家具工房が存在していたことが分かる⁵。

1970年頃を境にデンマークの家具デザインは黄金期の勢いを失い、家具職人による家具作りも衰退していったが、代わりにデンマークにおける家具産業の中心的存在となったのがファニチャーファクトリーである。ファニチャーファクトリーにおける家具作りは近代的な設備を活用した効率的な量産が特徴であり、その生産能力は家具職人による小規模な家具工房とは比較にならないものであった。

一方で黄金期に家具デザイナーの創作を支えた家具工房の多くは、効率的なものづくりが求められた時代の変化に対応することができず次第に姿を消していった。現在でも木工職人による伝統的なクラフトマンシップを維持しながら黄金期に生み出された家具を製造している家具工房は、PP モブラーのみとなってしまったといえよう。

このような家具工房とファニチャーファクトリーの相違点を踏まえた上でPP モブラーの分析結果に注目すると、PP モブラーの方針を理解することができる。ファニチャーファクトリーである他4社と比較してPP モブラーは復刻にあまり積極的でないようにみえるが、家具職人による伝統的なクラフトマンシップを重視した比較的小規模な家具工房であるため生産能力に限界があり、製品の種類を増やすことが困難であることが背景にあると考えられる。また製品のクオリティーを直近で管理するため、自社で製造が困難な金属部品などを除き製造を外部工場に委託していない⁶。

一方ファニチャーファクトリーであるフリッツ・ハンセン、フレデリシアファニチャー、カール・ハンセン&サン、ワンコレクションは、近代的な設備による効率的な生産と外部工場への委託によって生産能力をコントロールし易いため、積極的な復刻事業が可能となっていると考えられる。

2.2 ファニチャーファクトリー4社の比較

次にファニチャーファクトリー4社の比較を行う。いずれのメーカーも復刻に積極的であることがグラフからも明らかになったが、中でもカール・ハンセン&サンの復刻作品数は群

を抜いて多い。ルッド・ラスムッセンの買収によるコア・クリント、オーレ・ヴァンシャーによる作品の追加に加え、ボーエ・モーエンセン、ボーディル・ケア、フリッツ・ヘニングセン、ヴィルヘルム・ラウリッツェンら黄金期に活躍したデザイナーによる作品を多数複製したことが原因であるが、本社のあるオーデンセの郊外に新設した規模の大きい工場に生産を移行したことが背景にあると考えられる。

またフレデリシアファニチャーも2020年にエリック・ヨーゲンセンを買収しており、ハンスJ. ウェグナー、ポール M. ヴォルター、イエンス・リソムによる作品を製品ラインナップに追加しているが、黄金期に活躍したデザイナーが遺した作品の製造ライセンスを取得することにより効率的に複製作品を製品のラインナップに追加している点は両社の特徴である。

特定のデザイナーに特化した複製事業を展開しているのがワンコレクションである。PP モブラーもウェグナーに特化したメーカーであるが、先述の通り生産規模に限界があるため複製にはあまり積極的ではない。一方のワンコレクションは1990年に設立された比較的新しい家具メーカーであり、設立当初から製造の大部分を外部委託していることで知られている⁷。そのため生産能力をコントロールし易く、短期間に数多くのフィン・ユールによる家具の複製に成功している。調査対象の5社の中でもいち早く複製事業にビジネスの可能性を見出し、他のメーカーに先駆けて生産を外部工場に委託することで著しく成長したメーカーである。

次に現役デザイナーの登用に注目すると、比較的積極的なのがカール・ハンセン&サンとフレデリシアファニチャーである。しかしながらフレデリシアファニチャーは短期間で廃盤となるケースも多く、現役デザイナーにとって黄金期の作品が高い壁となっている様子が窺える。

おわりに

本稿ではデンマークの主要家具メーカー5社フリッツ・ハンセン、カール・ハンセン&サン、フレデリシアファニチャー、ワンコレクション、PP モブラーを対象として2014年、2021年および2023年における製品ラインナップの構成を定量的に分析し、作成したグラフによって複製事業や新製品開発に対する各メーカーの方針を明らかにすることができた。近年デンマークの主要家具メーカーにおいて複製事業が盛んに行われるようになり、各メーカーからの広報資料やカタログによって個々の複製作品について個別に認識することはあったが、複数のメーカーに跨って分析することにより、デンマーク家具業界全体の複製事業に関する動向を俯瞰的に捉えることができたのは本研究最大の成果であるといえよう。本研究の成果がアカデミックな分野のみならず、デンマーク家具業界における製造者や販売者にとっても自社の特徴や近年の動向を客観的に理解する上で有益な資料となることを期待する。

デンマークを含む EU 圏内の複数の国々では、家具のデザインは著作権によってデザイナーの死後 70 年間保護される。一方、日本では著作権ではなく意匠権によって保護されるため保護期間は最長でも 25 年間となり、著作権と比較して短い。そのためインターネットを介した通信販売サイトなどを中心に、過去の著名な家具の模造品を目にする機会が多い。近年デンマークの家具メーカーにとって、黄金期にデザインされた著名な作品の製造ライセンスそのものが資産となっているが、過去の優れたデザインに対する社会的需要が模造品ビジネスを成立させていることは皮肉な現実だといえよう。またデンマークの義務教育課程教科「手工とデザイン」では、黄金期にデザインされた椅子の背景や歴史を参考にしてミニチュア椅子を作成するというプログラムがあり、家具のデザインが自国文化の一部であることを学ぶ⁸。デジタルデバイスやモビリティなどテクノロジーの発展に伴い次々に新製品を送り出すメーカーが大多数である現代社会において、デンマークの家具メーカーは製品のみならず、その製品が内包する文化的価値も社会に提供しているといえよう。過去のデザイナーが遺した経営的かつ文化的資産をデンマークの家具メーカーが今後どのように取り扱っていくのか、引き続き動向を注視していきたい。

註

- 1 グラフは各メーカーのカatalogおよびウェブサイト上の情報を基に作成した。
- 2 筆者は 2019 年 3 月上旬に PP モブラーを訪問しキャスパー・ホルスト・ペダーセン氏に聞き取り調査を行った。
- 3 島崎信『デンマークデザインの国』学芸出版社、2003 年、61。
- 4 村上太佳子「デンマーク ― 近代の椅子デザインの背景」(織田憲嗣『デンマークの椅子』光琳社出版、1996 年)、6。
- 5 多田羅景太「キャビネットメーカーズギルド展における家具デザイナーとキャビネットメーカーの協力関係について」(『デザイン理論』76 号、2020 年)
- 6 前掲註 2
- 7 2009 年からは山形県にある朝日相扶製作所にも製造の一部を委託している。
- 8 「デンマーク王国のデザイン政策」(2022)『我が国の新・デザイン政策研究 詳細版報告書』(三菱総合研究所経営イノベーション本部 DESIGN×CREATIVE TEAM、2022)、24-27。

A Study on the Composition of the Product Range and Reproduction of Major Danish Furniture Manufacturers

TATARA, Keita

In recent years, the demand for Danish furniture designed during the golden age between the 1940s and 1960s has increased, driven by growing awareness through exhibitions. Instances of furniture designed over half a century ago being reproduced have become more prominent. For well-known designers such as Hans J. Wegner (1914–2007) and Børge Mogensen (1914–1972), several furniture makers often reproduced their works, making it challenging to grasp the overall situation of reproductions in the Danish furniture industry.

This paper quantitatively analyzes the product line-up composition of five major Danish furniture manufacturers - Fritz Hansen, Carl Hansen & Søn, Fredericia Furniture, One Collection, and PP Møbler - in 2014, 2021, and 2023. It also elucidates each manufacturer's policy towards the reproduction business and new product development. The study's most significant achievement lies in providing an overall picture of the trends in the Danish furniture industry regarding the reproduction business.

Based on the results of this analysis, we aim to gain an accurate understanding of the state of Danish furniture design, which flourished in the mid-20th century and continues to be embraced to this day.